

東地中海の天然ガス動向（2020年）

—Chevron の参入で東地中海が再び動き出すか？—

（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査部 川田 眞子

はじめに

2020年は、COVID-19の流行と油価の下落により、石油・天然ガス業界にとって厳しい年となった。東地中海も例外ではない。エジプトでは4月、油価下落に伴うガス価格の低迷により、唯一稼動していたELNG液化基地が停止した。6月に予定していたSEGAS LNG液化基地の再開も延期された。イスラエルでは、大型ガス田 Leviathan (22tcf)・Tamarガス田からエジプトへのガス供給量が減少した。これは、油価・ガス価の下落に伴い、これらのガスを国内販売向けに購入しているエジプト企業 Dolphinus が、「ブレント価格がバレル当たり50ドルを下回るとガスの購入量を半減できる」という契約条件を発動したためである¹。キプロスでは、今年前半に予定されていた米国系メジャー企業 ExxonMobil (Glaucus)、欧州系メジャー企業 Eni・Total (Calypso) による追加掘削が延期された。このように2020年上半期は、東地中海におけるガス関連の動きが停滞した。

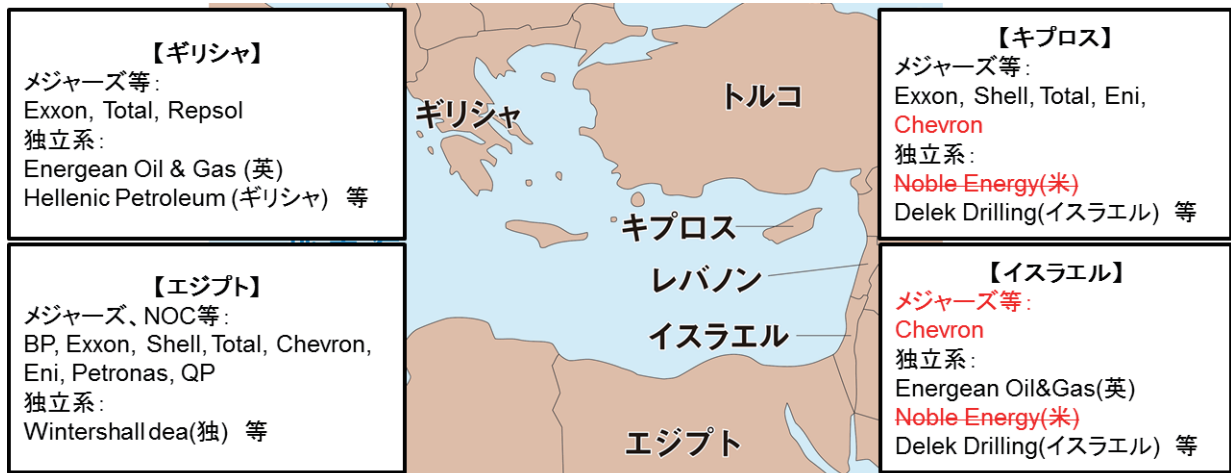
2020年7月、米国系メジャー企業 Chevron は米国・独立系企業 Noble Energy の買収を発表した。油価が低迷する中、他のメジャー企業と比較して負債の少ない Chevron が、米国で優良なシェール資産を持つ Noble Energy を買収したことは業界でも大きな話題となった。Noble Energy は、米国シェール資産の他に、東地中海でも多数のガス資産を保有している。イスラエルでは Leviathan ガス田のオペレーターを務めている。

Chevron は、Noble Energy の買収により、メジャー企業として初めてとなる歴史的なイスラエル参入を果たし、波紋を呼んだ。かつてメジャー企業は、多くの石油・天然ガスの探鉱・開発事業を有する中東諸国との関係悪化を懸念し、イスラエルへの参入を避けてきた（図1）。現に Chevron は、サウジアラビアとクウェートの中立地帯の石油プロジェクトに参画しており、イスラエル参入の影響を危惧する声が上がった。しかし今のところ、

1 エジプト政府は、油価・ガス価が下落した場合、ガス輸出による利益を確保することが難しくなるため、輸出を削減または停止し、エジプト産ガスを国内需要に充てる判断をすることが多い。よって、油価・ガス価が下落した場合、イスラエル産ガスの必要性が減少するため、このような条項を設けていたと推測される。

中東諸国から表立った非難の声はなく、むしろイスラエルと UAE の国交正常化など、逆に Chevron の判断を肯定するような前向きなニュースが相次いでいる。

図1：東地中海で活動する主要な石油・天然ガス企業



(JOGMEC 作成)

立ち回りが注目される Chevron は、2020年9月、早速、Leviathan ガス田のフェーズ 2 の開発を2021年1月までに開始するために関係者と調整を行っていると報じられた²。Noble Energy の買収発表からわずか2ヵ月後の出来事である。同記事では、Leviathan ガス田に隣接するキプロス・Aphrodite ガス田のオペレーターであり、ELNG 液化基地にも参画する欧州系メジャー企業 Shell と Chevron が協力しているとも触れられており、Leviathan ガス田・Aphrodite ガス田から ELNG 液化基地に直接繋がるパイプラインを建設し、LNG として輸出する計画が模索されているようである。

しかしながら、東地中海は歴史的に複雑な地域であり、地政学リスクがつきものである。また、米国・トランプ大統領の仲介でイスラエルと中東諸国の友好ムードが漂っているが、この流れがいつ変わるかも分からない。今回の分析では、行き先が不透明な中、Chevron がどのようにビジネスを展開し、課題を克服しようとしているのかを明らかにしたい。

なお、東地中海のガス田・ガスインフラの全体像については、巻末の参考資料をご覧ください。

1. 2020年、東地中海で急激に存在感を増す Chevron

Chevron は2019年からエジプトで新たな事業への参加に向けた動きを見せていた。2019年12月末、エジプト紅海の鉦区入札において、Block 1が付与された。さらに、2020年7月には、Chevronはエジプトの西地中海のフロンティア鉦区を2つ（Sidi Barrani, El

2 Chevron Eyes East Med Expansion, MEES, 2020年9月11日

Dabaa) 付与されてもいる。Chevron は前述のとおり 7 月には Noble Energy の買収を
発表し、東地中海でのフットプリントを大きく増やした (図 2)。

図 2 : エジプト・イスラエル・キプロスにおける Chevron および Noble Energy の主要参入鉱区



東地中海	イスラエル	Leviathan (22tcf)	Noble Energy*	2019年生産開始
		Tamar (10tcf)	Noble Energy*	2013年生産開始
	キプロス	Aphrodite (4tcf)	Noble Energy*	2011年発見
西地中海	エジプト	Nergis	Chevron*	探鉱中
		Sidi Barrani	Chevron*	探鉱中
		El Dabaa	Chevron*	探鉱中
		N Cleopatra	Noble Energy*	探鉱中
紅海	エジプト	N Marina	Noble Energy*	探鉱中
		Block 1	Chevron*	探鉱中

(JOGMEC 作成, 米印はオペレーター案件)

2020年10月のEnergy Intelligence Forumでは、Chevron CEOのMike Wirth氏は、Noble Energy買収による東地中海参入について質問を受けた際、東地中海のガス資源のポテンシャルを高く評価していること、ガス市場へのアクセスが魅力的であることから、今後の開発に期待をしていると述べた。しかしながら、東地中海の現状に目を向けると、最初のガスディスカバリーから10年以上経つが、すべてのプロジェクトはそれぞれ課題を抱えており順風満帆とは言えない状態にある。

筆者紹介

大阪大学法学部国際公共政策学科卒業。ハワイ大学法科大学院LL.M.修了(法学修士)。2016年、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)入構。2019年7月より現職。JOGMEC石油・天然ガス資源情報において、2019年11月「英国：英領北海におけるプライベートエクイティ系企業の台頭」、2020年4月「イスラエル・キプロス・エジプトを中心とする東地中海の天然ガス事情—Leviathanガス田生産開始—」などを発表。

2. 東地中海に立ちはだかる「輸出の壁」

2009年以降の東地中海におけるガスディスカバリーの中でも特筆すべきものは、エジプト・Zohrガス田(30tcf)とイスラエル・Leviathanガス田(22tcf)であろう。これら2つのガス田は、東地中海のディスカバリーの中で上位1~2位の確認埋蔵量を誇り、Zohrガス田は2017年、Leviathanガス田は2019年に生産を開始した。しかし、この2つのガス田は共通の問題を抱えている。それは、埋蔵量があるにもかかわらず、思うように輸出ができていない点である。

(1) エジプト・Zohrガス田の場合：SEGAS LNG液化基地の生産停止

エジプトのZohrガス田は、2017年12月に生産を開始した。しかし、Zohrガス田に近いSEGAS LNG液化基地は2012年11月にエジプト国営Egasにより生産が停止され、現在も稼動していない。LNG液化基地の停止の理由は、エジプトでガスの国内消費量が増加する一方で、国内生産量が伸び悩み、LNG液化基地に供給するガス不足に陥ったためである。またこの時期は、アラブの春によりエジプト経済が低迷し、エジプトから撤退する企業も現れ、生産量の低下を招いた。

2017年、Zohrガス田が生産開始し、エジプトのガス生産量が上向き始めた。しかし生産量が増加してからもLNG液化基地は再開されていない。その理由は、世界のガス市況の低迷である。Egasはガスの長期売買契約を世界のLNGバイヤーと締結しておらず、もしもLNGを販売するのであればスポット取引で販売せざるを得ない。EgasによるZohrガス田からのガスの買い取り価格³は4ドル超/MMBtuと言われており、これを液化して利益を得るためには、LNG価格は約7ドル/MMBtuで販売する必要があるとみられるが、

3 国営Egasは、Zohrガス田から生産されたガス全量を特定の価格(4ドル超/MMBtuと言われる)で買い取ることになっている。逆にZohrガス田の権益保有者のLNG引取量については詳細不明。LNGの引取量は、SEGAS LNG再開交渉においても重要な論点となる見込み。

最近のスポット価格は7ドルに達するような時期はほとんどなかった。ガスのスポット価格が高い時にだけガスを売りたいエジプト政府と、長期契約に基づいて高価格でLNGを販売できるEniなどの事業者との間で意見の隔たりが生じているようだ。

このように大型Zohrガス田の開発に成功したにもかかわらず、生産量を制限され、SEGAS LNG液化基地からLNGを出荷できないEniは、SEGAS LNG液化基地に参画しているスペイン企業Naturgy⁴とともに、2014年2月、世銀の投資紛争解決国際センター(ICSID)に調停を求めた。2018年9月、ICSIDは、EniとNaturgyはエジプト政府に対し20億ドルの賠償金を請求できるとしたが、エジプト政府はこの支払いに現在も応じていない。

(2) イスラエル・Leviathanガス田とTamarガス田の場合：ガスの輸出に反対する集団

イスラエルのLeviathanガス田は、2019年12月に商業生産を開始した。大規模開発が可能な確認埋蔵量はあったものの、大規模開発に見合うガス販売契約を確保することができず、生産能力を縮小して開発が行われた。ガスの供給先は、ヨルダン国営電力会社NEPCO(15年で45bcm)、エジプト民間企業Dolphinus(15年でLeviathanガス田とTamarガス田合わせて85bcm)である。輸出は既存のパイプライン(Arab Gas PipelineおよびEast-Mediterranean Gas Pipeline)を通して行われる。これらのパイプラインは、歴史的にはエジプトから近隣国にガスを輸出するために敷設されたものであるが、2020年は逆流させてイスラエルによるガス輸出が行われている。イスラエル・エジプト両政府は、Leviathanガスの生産および輸出開始にあたって、これを大いに歓迎した。

しかし、2020年2月、エジプトとイスラエルを結ぶパイプラインが武装勢力によって爆破された。エジプトとイスラエルの接近を快く思わないイスラム国系集団が犯行声明を発表した。次いでヨルダンでは、イスラエル産ガスの輸入が開始したことを受けて、ヨルダン市民と議会が抗議を行った。NEPCOのLeviathanガス田からのガス購入契約は15年で合計45bcmであるが、ヨルダン全体のガス需要は年間約3～4bcmであり、Leviathanのガスがヨルダンの需要の大半をカバーしてしまう計算になる。そのため、イスラエル産ガスへの依存を懸念する声が上がったのである。

さらに冒頭に説明したように、7月にはLeviathanガス田・Tamarガス田からエジプトへのガスの供給量が、「契約」に基づき最小レベルまで減少していることが明らかになったのである。

そもそもDolphinusという企業は、名目上はエジプトの民間企業であるが、実際はエジプトの有力者・政府関係者と近い関係にある企業と言われている。政府関係者の意向がエ

4 SEGAS LNG液化基地はEniとスペイン企業Naturgyの50:50のJV企業Union Fenosa gasがオペレーターを務める。

ジプトの政府や企業に有利に反映されやすいため、今後の政治状況・ガス市況次第では事業の進捗が阻まれる可能性も否定できない。

3. 資源メジャーの資金力とガス販売力で困難を乗り越えられるか？

ガス輸出の困難さを抱えた東地中海で、Chevronはどのような戦略を取るのだろうか？一部では、ChevronのNoble Energyの買収は米国シェール資産が本命であるため、中東諸国との関係や中立地帯のプロジェクトを優先するために東地中海のプロジェクトの優先度は低いのではという指摘もある。しかし、前述のとおりChevronは東地中海のプロジェクトを進めるためにすでに関係者との調整を始めているという報道も出ている。

Noble Energyに代わりオペレーターとなったChevronは、イスラエル・Leviathanガス田とキプロス・Aphroditeガス田から、エジプトのELNG液化基地へパイプラインを建設するという構想を基本としているだろう（図3）。また、2ガス田共同開発の背景では、キプロス・Aphroditeガス田において35%の権益を有するShellとの協力が念頭に置かれている。

2019年11月、Aphroditeの事業者（Noble Energy, Shell, Delek Drilling）は2022年までに投資決定（FID）、2025年までに生産開始を目指すことで合意した。キプロスには既存のガス開発インフラがないため、当時はAphroditeガス田から同じくShellが参入するELNG液化基地までパイプラインを建設する方向で検討が進んでいた。もしChevronとの協力により、Leviathanガス田からELNG液化基地へパイプラインに繋ぎ、そこにAphroditeガス田からのパイプラインを接続することができれば、設備投資の大幅な節約が可能となる。

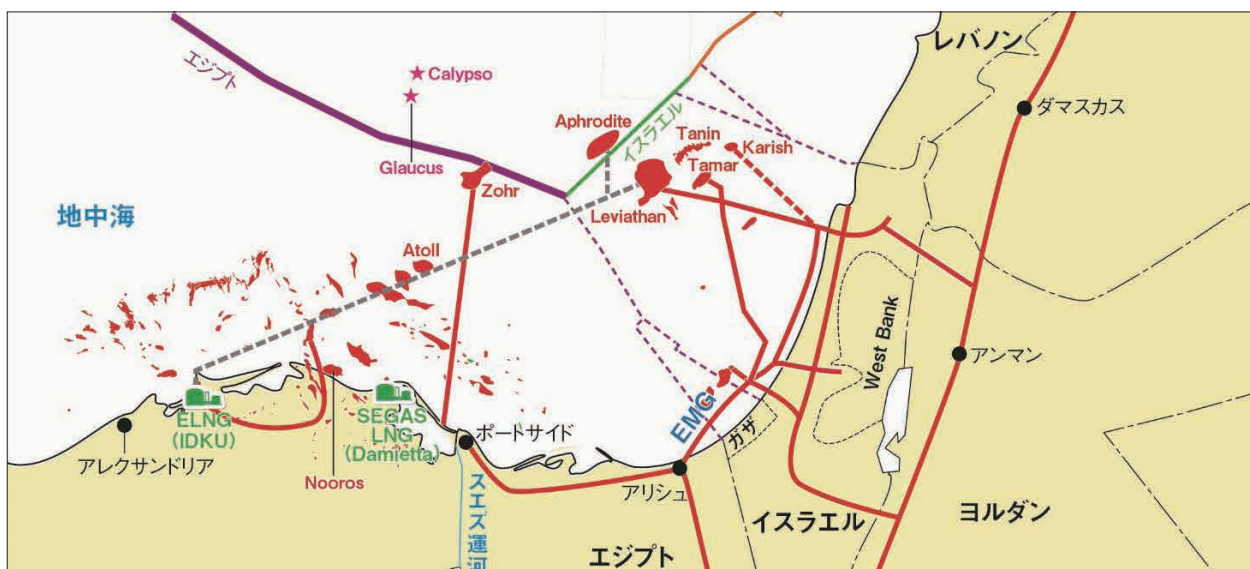
ShellがELNG液化基地へのパイプライン建設を望む理由は、ELNG液化基地への供給ガスを増やしたいからである。これまでELNG液化基地への主要なガス供給源であったShellのWDDM鉱区は生産量が減退しているために、「バックフィル」と呼ばれる後継のガス供給源が必要となっている。

しかしながら、キプロス・Aphroditeガス田の開発とイスラエル・Leviathanガス田との合同パイプライン建設には課題がある。

(1) キプロス・Aphroditeガス田におけるイスラエル・キプロスのEEZ問題

Aphroditeガス田は、キプロス・イスラエルの排他的経済水域（EEZ）境界付近に横たわっている（図3）。イスラエル政府はガス資源がイスラエルEEZ内にも存在すると主張しており、オペレーターChevronをはじめとするAphroditeの事業者がその開発を行う場合には、イスラエル政府とも協議をするよう求められている。また、パイプラインを建設する場合、キプロス・イスラエルのEEZ内を通過するため、両国と通行料についても協議する必要がある可能性がある。

図3：Leviathan ガス田と Aphrodite ガス田からのパイプライン計画（灰色点線）



(JOGMEC 作成)

Chevron は、イスラエル・Leviathan ガス田のフェーズ2の開発も含めてイスラエルの関係者と調整を始めているとみられ、メジャー企業がどのような交渉力を見せるか注目される。

(2) パートナー・Delek Drilling の資金調達力

他の課題として、Aphrodite ガス田と Leviathan ガス田の両方に参画するイスラエル企業 Delek Drilling の資金調達力が挙げられる。それぞれのガス田およびパイプライン建設の投資決定が行われた際には、数百億円～数千億円の開発費用が必要となるため、企業規模の小さい Delek Drilling が権益分の費用を負担することができるのか不安視する声がある。

これに対し、Shell は Aphrodite ガス田において投資家を探すために、過去数か月の間に多くの企業と会談しているとの報道があった。

(3) エジプトからの LNG 出荷をスムーズにするためのエジプト政府との関係

LNG 輸出のためには、エジプト政府との関係構築が重要となる。ガスの販売先を多角化できず、エジプト企業 Dolphinus へのガス販売契約に大きく依存していた Noble Energy は、大規模開発を断念し、Leviathan ガス田の生産を思うように伸ばすことができなかった。

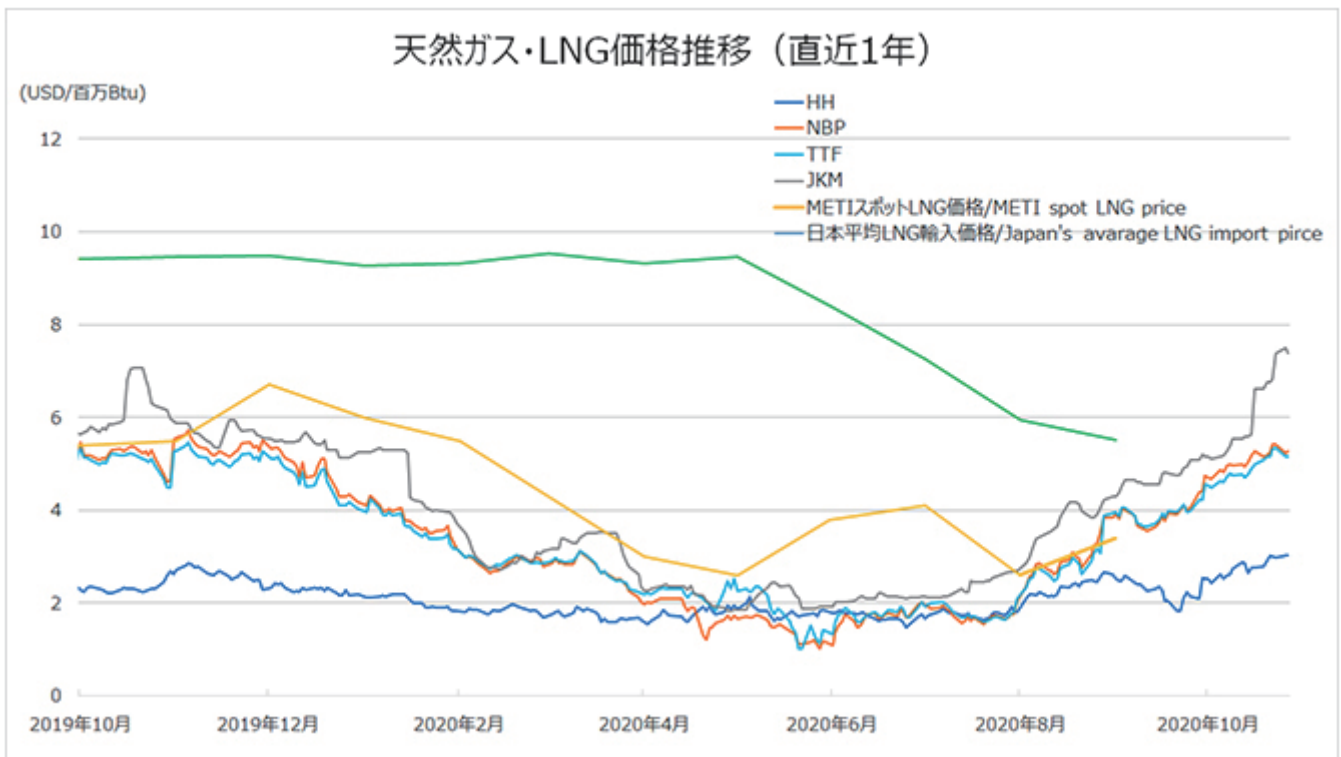
一方、Chevron および Shell は、世界中にガスの販売先を有しているため、エジプトへの供給契約に依存する必要はない。しかし、エジプトの ELNG 液化基地からどれくらい LNG を出荷するかという点⁵について、エジプト政府との交渉が必要であろう。両社はエ

5 ELNG 液化基地では、契約上、権益保有者は権益分の LNG の販売が可能であるが、2020年3月に政府によって輸出停止命令が出たこともあり、権益保有者に実際にどれほどの権限があるかは不明である。

ジプトで多数のプロジェクトに参入しているため、エジプト政府に対する交渉力が高いと思われる。さらに、エジプトの石油・鉱物資源大臣 Tarek EL Molla 氏は元 Chevron 勤務であり、交渉に有利に働く可能性がある。とはいえ、エジプト政府の LNG 輸出に関する判断は不透明な部分が多く、輸出が難航する可能性は依然としてある。

冒頭で、2020年にエジプトの2つの液化基地が停止したと述べたが、2020年下半期になり LNG の輸出を再開する動きがあった。LNG スポット価格の上昇（図5）を受け、エジプト政府は ELNG 液化基地からの出荷を承認しているのである。アジアの LNG バイヤーから Egas に対してアプローチがあったと報じられている⁶。

図4：過去1年の天然ガス・LNG 価格の推移



(JOGMEC 天然ガス・LNG 価格動向より引用⁷)

アジアの LNG 価格（JKM）の上昇は、冬季のガス需要の高まりに加えて、複数の LNG プロジェクトがオフライン（主に、豪州・Gorgon LNG のメンテナンス延長と豪州・Prelude FLNG の再稼働遅延）になっていることに起因している。エジプトが LNG を継続的に輸出するのか注目される。

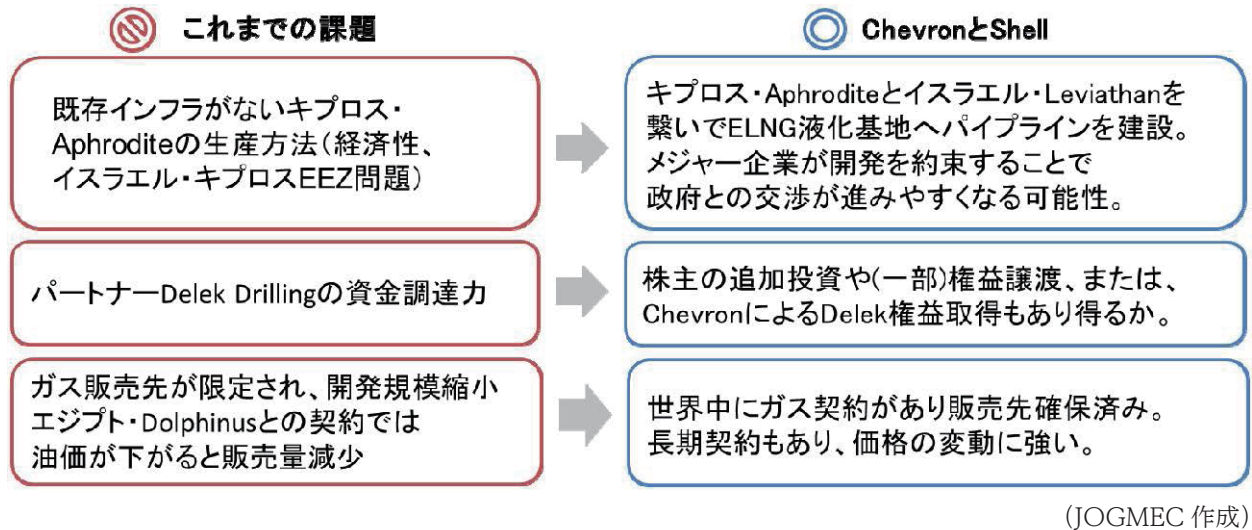
図4のとおり、Chevron と Shell による開発計画は課題が多いものの、メジャー企業な

6 Egypt Gas Producers Get Export Boost As Asian LNG Prices Rise, MEES, 2020年10月30日

7 JOGMEC 天然ガス・LNG 価格動向（2020年10月）：

<https://oilgas-info.jogmec.go.jp/nglng/1007905/1008872.html>

図5：東地中海ガス田開発におけるこれまでの課題と Chevron/Shell の解決策



らではの強みで困難を乗り越えようとしているようにみられる。

東地中海においては、この計画の他にギリシャ・イタリアまでパイプラインを引く東地中海パイプライン構想やイスラエルでFLNGを導入する構想もあるが、コストや地政学リスクを考慮した場合、ChevronとShellによる、エジプトにガスを輸送してLNGとして販売する計画が最も実現性が高いように思われる。

4. その他のトピック（トルコの黒海ガス田／イスラエル・レバノンの海洋国境協議）

その他、この地域において2020年に話題になったトピックを紹介したい。

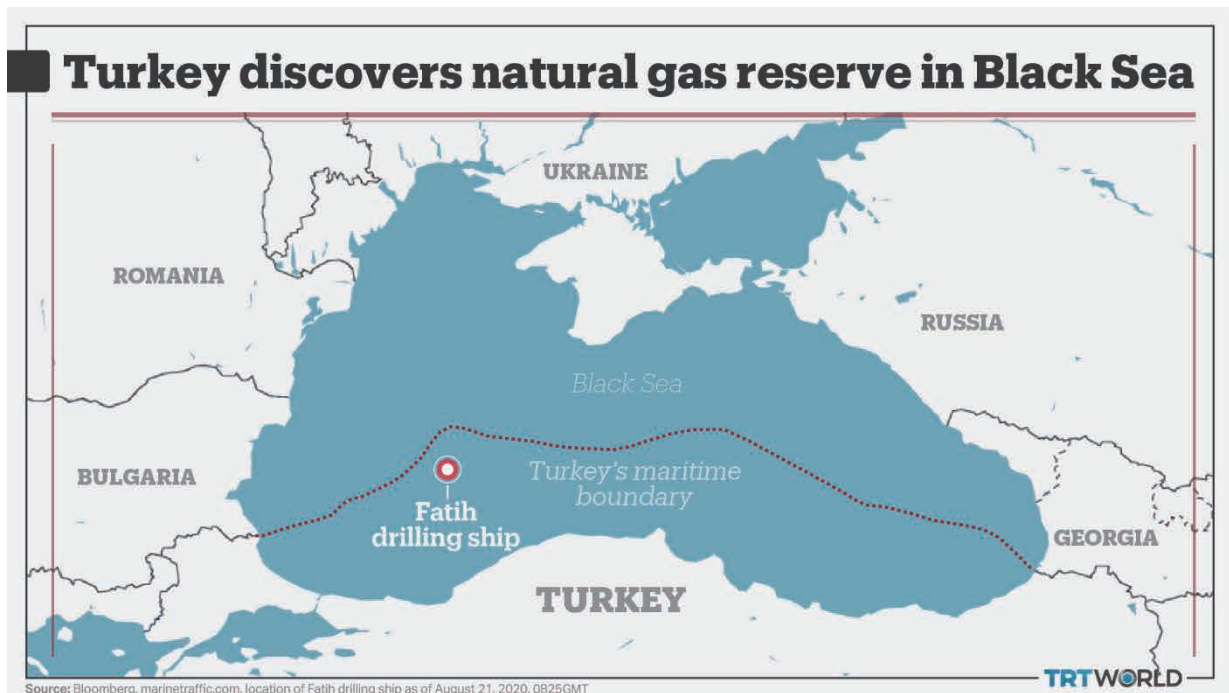
(1) トルコの黒海におけるガスディスカバリー

トルコは、探査活動を積極的に行っており、今年8月に黒海でガス資源の発見を発表した（図6）。トルコはさらに掘削を続け、10月には405bcmのガス資源があると推定されると発表した。トルコは、このガスの発見により国外からのガス購入契約更新には強気で挑む姿勢を見せている。

しかしながら、この数字はトルコ国営石油会社 TAPO による発表であり、第三者の確認が入ったものではないこと、405bcmという数値はあくまで推測であり確認埋蔵量ではないことから、懐疑的な見方もある。またルーマニアやウクライナの沖合ではガス田が発見されており、トルコ領黒海も以前より地下資源のポテンシャルがあるとされてきたが、これまで商業生産を行っているガス田はない。

トルコは黒海に留まらず、東地中海のギリシャとの国境紛争地域においても探査を行っている。ギリシャは反発しているが、トルコは探査を継続している。2020年10月30日にエーゲ海で発生した地震を受けて、トルコとギリシャは会談を行い、犠牲者への弔意を示した。しかしその後、トルコはギリシャとの国境紛争地域における探査は継続して行うことを発表しており、緊張状態が続いている。

図6：黒海におけるトルコのガスディスカバリーの位置



(TRT より引用)

(2) イスラエル・レバノンの EEZ 境界協議

2020年10月、イスラエルとレバノンは、米国の仲介により両国間の海洋国境を巡る協議を行うことに合意した。レバノンは、東地中海におけるガス発見の波に乗り、ポテンシャルがあるとみられているイスラエルとの EEZ 境界付近の探鉱を進めたいと考えている。

イスラエルとレバノンは国交関係がなく、協議は時間を要する可能性が高い。しかし今回、これまで進んでいなかったEEZ境界協議に進展があった背景には、レバノンの財政難など国内の不安定な状況が影響していると思われる。

おわりに.

Chevron の Noble Energy 買収による東地中海への参入によって、イスラエル・Leviathan ガス田のフェーズ 2 開発や Shell との協力によるキプロス・Aphrodite ガス田とエジプト・ELNG LNG 液化基地へのパイプライン建設による東地中海のさらなるガス輸出への期待感が高まった。イスラエル・キプロスのガスをエジプトで液化して LNG として輸出する案は、課題はあるものの、事業者・関係者間で解決策を探る余地が十分にあり、東地中海パイプライン等の他の計画と比較すると、実現性が高いように思われる。

しかしながら課題もある。1つ目はエジプトの LNG 液化基地を稼働させるかどうかの判断をエジプト側が行う点である。エジプトでは、Egasが契約上、強い力を持ち、スポット価格が落ち込み、ガスを輸出しても利益が得られないと判断した場合、ガス田の生産抑制や LNG 液化基地からの輸出停止を命じることがある。よって、メジャー企業はスポッ

ト価格の推移に左右されない長期契約や優良な顧客を多数有しているにもかかわらず、エジプト政府によって生産抑制・輸出停止が判断されると、みすみす LNG 販売の機会を逸することになる。

2つ目はイスラエルと中東諸国の関係の変化である。2020年は、トランプ政権の外交政策により、イスラエルと中東諸国の間で友好ムードが漂った。これは Chevron のイスラエル参入に良い影響を与えてきた。しかし将来、バイデン政権により、米国の政策が変更され、イスラエルと中東諸国の関係が悪化し、Chevronがイスラエルか中東諸国かを選択しなければならない事態が起こる可能性もゼロではない。また、イスラエルと中東諸国の関係悪化は、米国の外交政策に関わらず、他のトリガー（たとえばパレスチナ問題）によってもたらされることも想定される。

歴史的・政治的な問題に加えて、資源価格の落ち込みにより停滞していた東地中海のガス開発が、Chevron の参入がきっかけとなり大きく動き始める可能性が高まりつつある。もし Chevron と Shell の協力が実現すれば、イスラエル・キプロスのガスをエジプトから LNG として輸出するという、壮大な東地中海 LNG 輸出構想が大きく進展するだろう。ガス開発にとって最も困難な課題は、事業者だけでは解決できない類のものである。事業者と関係国政府がどのような連携をしていくのか、今後も注視したい。

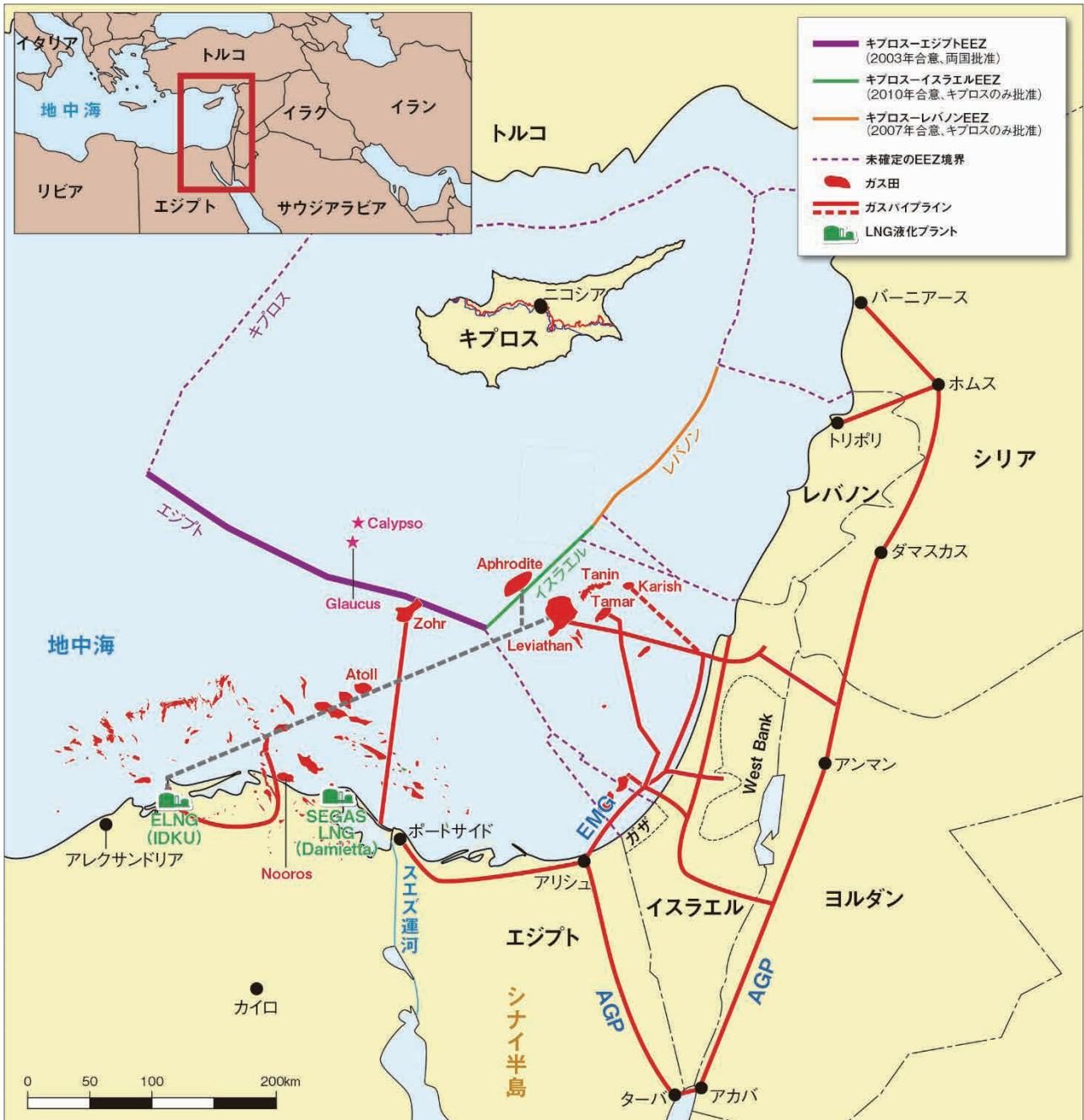
(参考：東地中海のガス資源概要)

一般的に東地中海のガス田と呼ばれるものは、キプロス・イスラエル・エジプトの EEZ 境界付近に横たわるガス田を指す。この海域では、2009年のイスラエル・Tamar ガス田を皮切りに、2010年の同国・Leviathan ガス田、2011年のキプロス・Aphrodite ガス田、2015年のエジプト・Zohr ガス田などディスカバリーが相次いだ。このうち、イスラエル・Tamar ガス田、Leviathan ガス田とエジプト・Zohr ガス田はすでに生産を開始しており、Leviathan ガス田については既存パイプラインを通じて周辺国にガスを供給している。各国のプロジェクトの埋蔵量や参入企業についてはこちらのレポートをご覧ください⁸。

この地域にメジャー企業が注目する理由は2つある。1つ目は資源ポテンシャルの大きさである。この地域には、生産中の Zohr ガス田 (30tcf)、Leviathan ガス田 (22tcf) といった大型ガス田に加えて、キプロスの Calypso, Glaucus といった未開発ながらも有望なディスカバリーがある。仮に未開発のガス田の開発が進んだ場合、世界有数のガスの輸

8 天然ガス・LNG を巡る動向 (2020年), JOGMEC, 2020年9月24日：
https://oilgas-info.jogmec.go.jp/seminar_docs/1008672/1008842.html
イスラエル・キプロス・エジプトを中心とする東地中海の天然ガス事情 —Leviathan ガス田生産開始—, JOGMEC, 2020年4月20日：
https://oilgas-info.jogmec.go.jp/info_reports/1008604/1008736.html

図7：東地中海の主要ガス田とガスインフラ



(JOGMEC 作成)

出地域となる可能性がある。

2つ目は、ガス市場へのアクセスである。東地中海のガス田は、大きなガス需要地である欧州市場に距離的に近い。エジプトには、東地中海に面する2つのLNG液化基地(ELNG液化基地・SEGAS LNG液化基地)があり、そのうちSEGAS LNG液化基地は現在稼動しておらず、さらなる輸出の余力がある。LNGとして輸出する場合は、欧州と距離が近いため輸送費を節約することができ、価格競争力も期待できる。他には、ギリシャ・イタリアへと続く、総延長1,900kmの東地中海パイプラインの構想もある。

また、人口が増加している MENA (Middle East and North Africa) 地域ではガス需

要も伸びる見通しで、地域での需要も十分見込まれている。この地域には、エジプト・ヨルダン・シリア・レバノンを結ぶ Arab Gas Pipeline (AGP) とエジプトとイスラエルを東地中海経由で結ぶ East-Mediterranean Gas (EMG) Pipeline といった2つのパイプライン網が張り巡らされている。既存インフラを利用した輸出はすでに行われており、需要が増加すれば、既存インフラの拡張も考えられるだろう。

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

* 本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。